

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	7 月	25 日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門		

文化財名	浮田杜(うきたのもり)伝説地				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1957年(昭和32)6月13日				
所在地	五條市今井町905				
所有者 管理者	荒木神社				
員数	---				
時代区分	---				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り(県教委、荒木神社氏子総代それぞれが設けたものがある)				
公開	一般の立ち入りは認められていない。(荒木神社は参拝自由)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	浮田杜伝説地がある荒木山は広さ約4600平方 ^m 。2013年(平成25)ごろから、荒木山北側の民間の隣接地から竹の根が伸びてきた影響で、杜のシイ、ヒノキなどの樹木が枯れる事態が起きた。氏子総代会で根や竹の伐採作業を毎年続けている。				
今後の課題	杜の樹木の生育状況を氏子総代会で観察していく。				
その他 (由緒など)	今井地区の北に位置する荒木神社北側の荒木山は浮田杜とも呼ばれてきた。シイ、クロバイを中心とする常緑広葉樹林、ヒノキなどの針葉樹林で構成され、クロバイの巨樹群生は植物学上、貴重とされる。『万葉集』に女性で作者不詳の「かくしてや なおや守らむ 大荒木の 浮田の杜の 標(しめ)ならなくに」の恋歌がある。標縄を張ったこの杜が古来、人の立ち入りを禁じていたことを踏まえ詠まれたとされている。				
コメント	荒木神社の氏子約1500世帯で組織している今井地区氏子総代会は、浮田杜伝説地の樹木保護のための竹伐採や神社境内の毎月の清掃作業などに取り組んでいるという。宮司は隣接の市から祭礼時に来てもらい、普段は氏子総代会で神社を運営している。伝説地という名称と、浮田杜への立ち入り禁止規定から部外者には近寄りたがたい感もあるが、杜と神社の景観保護・存続のため氏子総代会の方々の熱意に感銘した。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

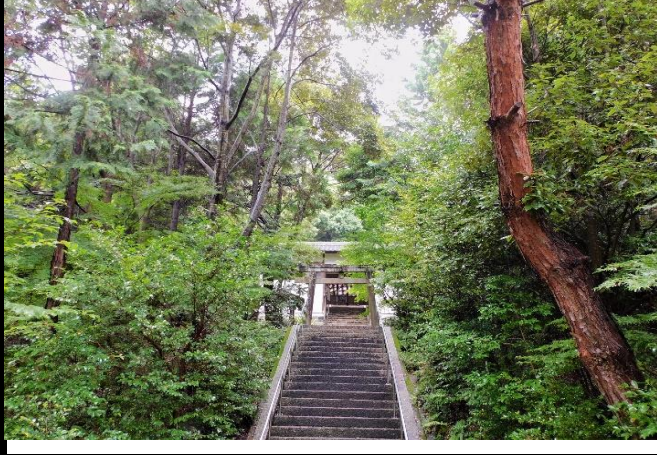
調査日	2020 年	7 月	25 日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門		

文化財名	浮田杜(うきたのもり)伝説地
------	----------------

鳥居の奥に広がる浮田杜伝説地	いわれのある標(しめ)縄が張られた鳥居
----------------	---------------------



鳥居をくぐると石段奥に荒木神社拝殿と浮田杜	参道に立つ「浮田之杜」と神社名の石柱
-----------------------	--------------------



県教委の浮田杜伝説地説明板	万葉集に歌われた浮田杜の歌碑
---------------	----------------

